

## 幸清会初開催の2認知症研修会

きめ細かい内容  
受講者から好評

洞爺湖

洞爺湖町の社会福祉法人幸清会(大久保幸稜理事長)が町内川東の高齢者ケア研修センター・財田の杜で10月から初めて取り組んでいる「認知症介護実践研修」と「認知症対応型サービス事業管理者研修」が好評だ。胆振管内中心に介護現場で働く各地のスタッフが受講し、レベルを高めている。同法人によると、民間による開催は道内でも珍しいという。(小林正律)



認知症への理解を深めてもらおうと幸清会が初めて開催した研修会

## 「実践」「管理者」専門性高める

研修会は、認知症に「管理者」に対する基本的な知識や技術を身に付ける「実践」と、施設長クラスの人材を育てる「管理者」の2種類。通常は道や札幌市が主催して札幌中心に開催している。このため、「胆振地域の福祉サービスをより向上させたい」と幸清会が道に要望し、開催の許可を得て実現した。

10月1日から始まり、27日に終了した「実践」には53人、11月中

研修会は、句まで開催の「管理者」には20人が受講。それぞれ、認知症高齢者と「コミュニケーション」の基礎を学習。「管理者」はさらに職員の労務管理や人材育成について理解を深めており、きめ細かい研修内容が受講者から好評だ。

幸清会の大久保有慶事務局長は「この機会を通じて専門性を高めている。」と成果に期待している。